

第5学年 国語科学習指導案

指導者 長安 邦浩

1 単元 資料を使って、意見文を書こう

2 指導の立場

本学級の児童は、10月下旬から朝のモジュールにおいて、200字程度の意見文を書く練習を週に2回してきている。そこでは、賛成か反対か立場を決めて考えを書いたり、テーマへの自分の思いを自由に書いたりしてきた。児童は、最初は、決められた字数が書けなかったり、自分の考えがもてなかったりしたが、モデル文を参考にしたり、互いの作文のよさを交流したりすることで少しずつ慣れてきた。資料の活用については、「天気を予想する」でその効果について話し合ったが、意見文の根拠として書くことは経験していない。

本単元は、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、読み手が納得できる意見文が書けるようになることをねらっている。そのためには、文章全体の構成の効果を考えて段落を構成することが大事である。本単元では、頭括型の「結論→理由（→まとめ）」で構成し、理由を裏付けるための根拠として資料を活用するよう促す。意見文のテーマは、社会科との関連から「日本人は、食料自給率をもっと上げるべきか、このままでよいか」とする。扱う資料として、食料自給率の推移を表すグラフ、主要生産国の食料自給率のグラフ、食料自給率に関する書籍やウェブページ等からの引用文等を示し、自分の意見を主張するのにふさわしい資料を選んで活用できるようにさせたい。

そこで指導にあたっては、以下の点に留意したい。

- 資料は、複数を組み合わせて活用し、200字程度の字数で書くことを条件とし、より説得力のある意見文になるよう促す。
- テーマへの自分の考えとその理由、根拠を明らかにするために、資料の内容の吟味や効果的な活用の仕方について意見交流し、自分の意見文に生かせるようにする。
- 書いた意見文を読み合い、互いのよさや改善点について交流したことを自分の意見文に反映できるようにするメモ欄を原稿用紙に位置付ける。
- 資料の読み取りに慣れていない児童もいるので、「資料活用のヒント」を示すことで、作文への抵抗を少なくする。

3 単元目標

- (1) 意見文をよりよいものにするために、進んで友達と交流することができる。
- (2) 資料を効果的に引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、読み手が納得できる意見文を書くことができる。
- (3) 主張と根拠を表す語句同士の関係を理解して使うことができる。

4 指導計画（全5時間）

- 第一次 例文をもとに引用や数値を意見文の根拠とする方法を吟味する（1時間）
- 第二次 資料を選択し、意見文を書き、交流する（3時間）（本時3/3）
- 第三次 交流でよさを伝えたり、助言したりしたことをもとに修正する（1時間）

5 本時案

(1) 主眼

自分の主張を読み手に納得させるために適切な資料を根拠として選択、活用して意見文を書き、書いたものについて友達とよさを伝えたり、助言したりできる。

(2) 準備

実物投影機、スクリーン、資料の拡大版

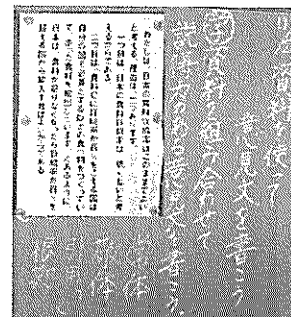
(3) 学習の展開

学習活動・学習内容 (予想される子どもの反応)	教師の働きかけ
<p>1 例文を吟味することを通して、自分が選択した資料の有効性や構成について見直す。</p> <p>○例文は、どこが引用かわからない。「」を付けるべきだ。</p> <p>○理由に根拠が書かれていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の有効性 ・引用の仕方 ・敬体と常体 	<p>T この例文を読んで、おかしいと思うところはどこか。</p> <p>○児童が間違いやすい引用での「」の書き忘れ、常体と敬体の混在、根拠の曖昧な理由付け等のある例文を示し、問題点に気付かせることで、意見文を書く際の注意点を確認する。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">資料を組み合わせると説得力のある意見文を書こう。</div>	
<p>2 意見文を書く。</p> <p>○日本は輸入に頼りすぎていることが分かる資料を選ぼう。</p> <p>○グラフの数字を使って理由が説得力あるものにしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結論→理由 (→まとめ) ・接続語 ・数値 ・ナンバリング ・事実と感想、意見の区別 	<p>T 読み手に注目させたい言葉や数字は何か。</p> <p>○それぞれの立場からの意見例が書いてある「資料活用のヒント」を配布し、書きぶりを整える参考にさせる。</p> <p>○書くことが進まない児童には、他の児童の作品の書きぶりや内容を伝え、参考にさせる。</p> <p>○推敲の意識を高めるために、作文用紙に自己評価や誤字脱字等のチェックを記入できる欄を設ける。</p>
<p>3 書いた意見文を交流する。</p> <p>○カナダは自給率が223%もあるのに日本は39%しかないというのは、自給率を高めたいということへの根拠になるね。</p> <p>○「一つは」とあるのに続くのが「二つ目は」になっているから直した方がいいよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よさ、感想 ・助言 	<p>T どのような資料の組み合わせが効果的か。</p> <p>○友達作品を自由に読んで歩き、よさや助言、感想をメモ欄に書いて伝えさせることで、全員が主体的に相互評価をできるようにする。</p> <p>○クラス全体での交流では、説得力があってよいと思った作品を推薦、発表し合うことで、説得力が高まる書き方のイメージを共有できるようにする。</p> <p>○意見と理由、根拠の関係がうまくつながっている例を教師が意図的に指名し、価値付けることで、それぞれの修正のヒントにさせる。</p>
<p>4 修正したいことをメモする。</p> <p>○この根拠では、説得力が弱かったので別のものに変えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現の効果 	<p>T 友達の助言からどのようなことを修正したいと考えたか。</p> <p>○友達に記入してもらったメモ欄や話し合いを参考に、推敲のためのメモ欄に書かせる。</p>

○授業の実際

授業の最初の5分間は、学習課題を確認した後に、例文を提示し、「おかしいと思うところはどこか」と問い、児童が間違いやすい引用での「」の書き忘れ、常体と敬体の混在、根拠の曖昧な理由付けの問題点に気付かせ、作文の注意点を意識付けた。

意見文は、前時に書いていた構想メモを見ながら15分間で書いた。作文用紙には、以下の条件を示し、それらを推敲の際のチェックポイントにした。

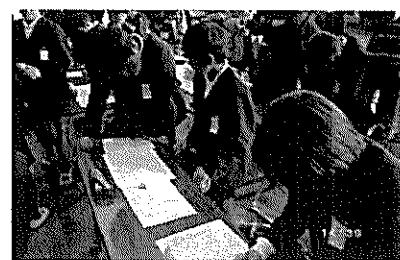


条件1 最初の段落に、日本の食料自給率をもっと上げるべきか、このままでよいか、結論を書くこと。

条件2 第二段落以降に、資料から根拠として自分の意見に有利な数値や引用を使って、理由を二つ以上書くこと。

条件3 字数は、200字以上400字以下で書くこと。

全員が書き終わり、今度は、書いた意見文を交流した。交流の前半の10分は、全員が友達の意見文を次々に読んで回り、一人2作品ずつ「友達のよかったところ」や「修正したらよいと思うこと」を作文用紙に書いた。作文用紙には、例えば、「説得力のある理由や根拠（数値や引用）の組み合わせにする」「敬体、常体どちらかにそろえる」「自分の考えを書く」等、コメントを書くための視点を示した。



児童は、例えば以下のことを書いていた。

- ・理由と根拠が分かりやすく、これからの日本のことまで考えていたのがよい。
- ・日本の食料自給率が39%という数字が使っていて、自給率が少ない感じがして説得力があっていると思う。
- ・引用しているところと理由をつなげて書いているのがよい。
- ・日本のおいしい食べ物を食べたいということがよく分かった。
- ・自分の考えが書けていてよい。
- ・常体と敬体をそろえた方がよい。

交流の後半の10分は、クラス全体で作品を推薦し合った。ここでは、「意見文に書かれた二つの資料の組み合わせからどんな印象を受けるか」と発問し、資料の提示の仕方による効果に気付かせようとした。

例えば、日本の食料自給率を上げた方がよいと主張する児童が、「外国の農作物の不作や戦争による輸出停止について書かれた資料」と、「身近な食べ物の日本の自給率の低さ（小麦12%、大豆8%等）を示す資料」を組み合わせで説明することで、読者は、「これからの日本の食料が不安になる」という印象をもつことがわかった。

また、日本の食料自給率はこのままでよいという主張する児童は、「日本の食料自給率は平成10年から減っていない」「輸入野菜は、日本の野菜より安く買える（例えば、にんにくは日本の約30%の価格）」等の資料を示した。この意見文に対しては、「限られた資料からみたらこのようにも言える」と食料自給率を上げた方がよいという立場からの反論も出た。

そして、このような交流の後の5分間で、作文用紙にある「仕上げに向けたメモ」を書き、発表した。以下がその例である。

- ・他の人の意見文を見て、自分の考えをもっと書いたらよいと思った。
- ・輸入ができなくなると困るということを分かりやすく説明することに気をつける。
- ・違う資料の組み合わせも考えたい。

○研究協議での意見や提案、授業後の考察

研究協議での意見や提案は、以下のようなものがあつた。

- ・活用する力をつけるための即効的な取組はなく、全ての学習活動で付けたい力を意識し、こつこつと進めていくことが大切と思った。
- ・日頃の取組が必要。モジュールの工夫、書くための条件設定をヒントにしたい。
- ・書く授業でも、用語や技法など基本的事項を教えていかなければならないと思った。
- ・全員の児童が同じ土台に乗れていたため、全員がさっと書き始めることができた。
- ・作文用紙に本日の活動がコンパクトにまとまっていて、児童が本時の学びを自覚できる。
- ・意見文のテーマは児童にとってより切実感があるものにする必要がある。「誰に」「何を」という相手意識、目的意識を明確にしたい。
- ・書くことを扱った授業で、児童が振り返りで活用できるような板書を工夫したい。
- ・内容の修正がより効果的にできるのは構成メモの段階なので単元構成を見直したい。

これらの意見や提案から、今後、意見文を書く学習を進めていくにあたって、以下のことを考慮に入れて実践していこうと考えている。

- ・本実践では、モジュールでの作文でも本単元の中でも全ての時間に全員が作文を書き終えることを目指してきた。そのためには、書く方法をきちんと伝え、例文を示して書く内容をイメージさせ、友達同士で作品を読み合わせ、できたことを具体的に個人もクラス全体にも価値付けることが大切ということがわかった。今後も続けたい。
- ・自己評価をさせる項目を作文用紙に入れておいたが、それ以外にも授業で振り返らせたり意識させたりする指導事項があつた。欲張らず、評価項目や規準を焦点化したい。
- ・意見文では、根拠や理由以外に自分の考えをどの程度どのように盛り込ませるか迷うところである。作文指導として文種やテーマに沿った書かせ方を研究していきたい。

○成果がわかるデータ

モジュールで200字程度の意見文の書き方を指導し、数回実施した後に、平成25年度学力定着状況確認問題に取り組んだ結果、本校5年生の国語科「書く能力」の通過率が県平均を9ポイント上回った。

○学校全体での取組や他教科への広がり

学校全体での取組としては、5年生全体で取り組んだモジュールの時間の作文指導を他学年でも広げようとする動きが出ている。具体的には、学年に応じて100～200字程度の条件付き作文を3学期からモジュールの時間に定期的に取り入れていくことを検討中である。

他教科への広がりについては、社会科において、本単元の終了後に「これからの食料生産とわたしたち」の授業を行った。本単元で日本の食料自給率についての多様な資料を読み取って予備知識を身に付けており、自分なりの意見ももっていたので、興味津々で、主体的に社会科の授業に入ることができた。その結果、業者テストでは、平均点が90点を超える結果となった。その他に、算数の学期末の振り返りを文章で書かせた際、自分が算数で頑張ったことについて結論を先に書き、「理由の第一は、」「理由の第二は、」というようにナンバリングを使っている姿が見られた。国語科で学んだことが日常の文章表現に反映されていることが分かる。